

III 図書部門

サービス

図書部門においては、前年度に引き続いて統括責任者による他部門との情報共有、図書部門スタッフへの適時の情報伝達を徹底してまいりました。具体的には、責任者会議、コンソーシアム会議、企画検討プロジェクト会議、広報会議等館内他部門との会議において情報を適時に共有するとともに、毎日の定時ミーティング及び月1回の館内整理日ミーティングにおいて図書部門スタッフへの共有を常に図ってまいりました。

1. 蔵書構成

蔵書構築においては、「千代田区立図書館資料収集方針」「千代田区立図書館資料選定基準」に基づき策定した「千代田区立日比谷図書文化館蔵書整備3カ年計画」により、図書部門の三つのテーマである「ビジネス情報」「アート情報」「地域情報」の充実に努めました。

(1) 図書資料

図書部門の三つのテーマである「ビジネス情報」「アート情報」「地域情報」を中心に、区民および近隣のビジネスパーソンの知的欲求に応え、さらなる知的好奇心を開拓するような蔵書構築をテーマごとに行っています。

区内図書館との間で定期的な協議により、資料の効率的な収集を適切に行ってまいりました。旧都立日比谷図書館時代からの移管資料の欠落及び休館中に購入ができなかった基本図書・継続資料(年鑑・白書等)等の補充は、「日比谷図書文化館蔵書整備3カ年計画」に基づき進めました。また課題であった「2006年(平成18年)から2008年(平成20年)に刊行された資料」の補充については、購入や寄贈等により500冊以上の受入を行いました。

(2) 新聞・雑誌

新聞は東京新聞の電子版を館内貸出用iPadで読めるようにいたしました。雑誌については日比谷界隈のビジネスパーソンのニーズに応じたタイトルを選定し提供しています。



新聞コーナー

2. 各種サービス

(1) データベースの充実(オレンジゾーン)

27年度は雑誌記事検索のためのデータベースであるマガジンプラスを新たに導入し、利用者の調査・研究環境のさらなる充実に努めました。また昨年度に引き続いてデータベースの使い方に関する講座を図書フロア2階カウンター前で昼と夕方の来館者の最も多い時間に実施し、データベースの利用増加につなげました。



オレンジゾーン

(2) 地域(行政)資料(パープルゾーン)

江戸・東京・千代田及びその周辺をテーマとした収集という方針に従って、収集を行いました。江戸時代を舞台とした定評ある作家の時代小説はパープルゾーンに配架し、ゾーンに特徴を持たせています。

行政資料についても、区内図書館の役割分担に基づいた収集を適切に行いました。

(3) 新書・文庫コーナー(グリーンゾーン)

「知の入り口」としての新書・文庫の収集に努め、展示でも積極的に紹介することで貸出数の増加に貢献しました。

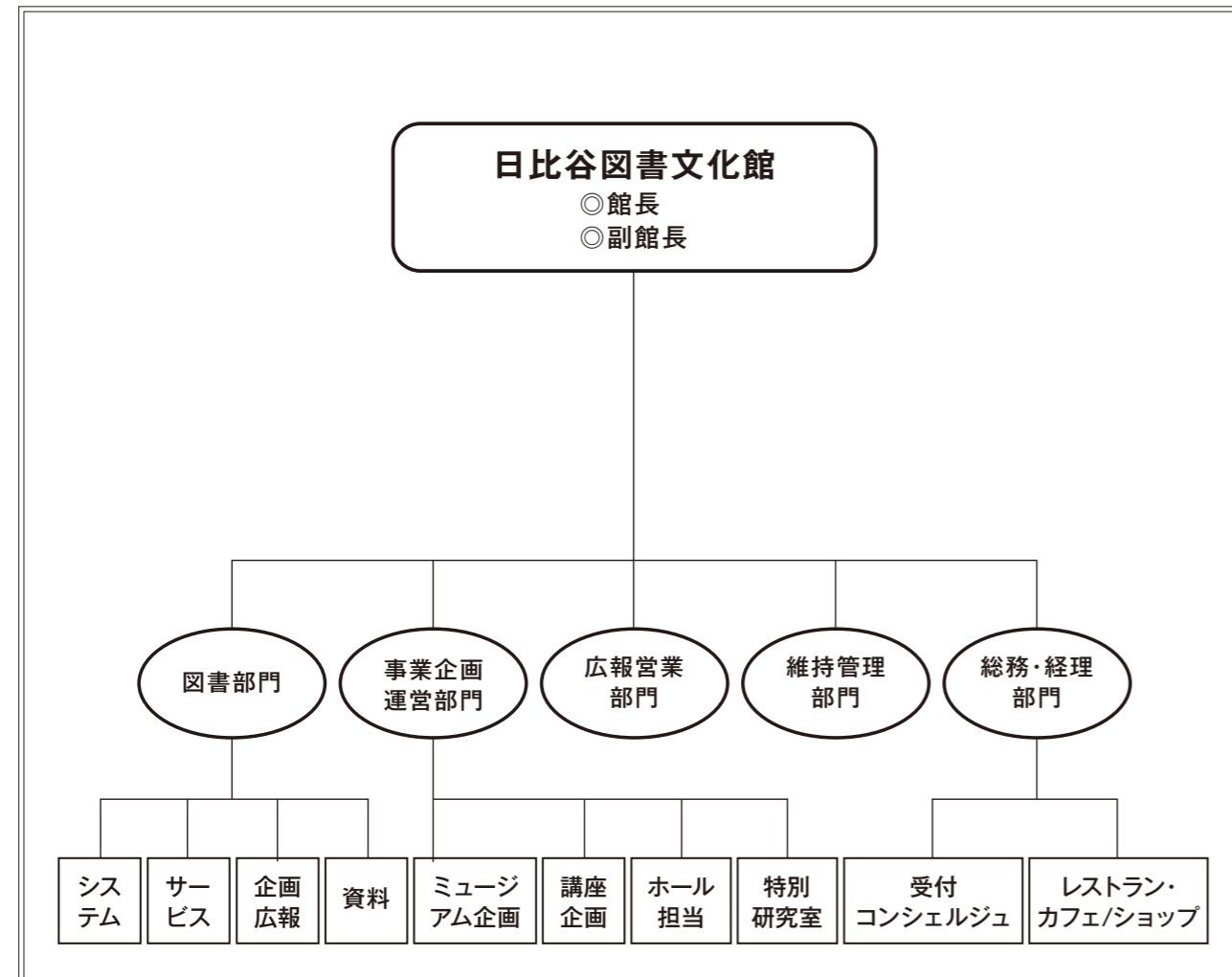
(4) アート情報支援コーナー(ブルーゾーン)

資料の充実に努めるだけでなく、利用のしやすさ向上のためのレイアウト変更を行いました。レイアウト変更の周知およびコーナーの認知度向上のため3階エレベーターホールで美術館の展覧会の図録を集めた展示を行いました。関係機関・団体との連携にも努めました。

の参加および講座参加者の館内回遊を誘導するよう工夫しています。さらに1階のショップでは関連図書の陳列販売も行い参加者の利便を図っています。

II-2 「組織・運営」

【組織図】



平成28年3月末現在

【運営】

千代田区立日比谷図書文化館は指定管理者制度により下記の指定管理者が管理運営を行っています。

指定管理者団体:日比谷ルネッサンスグループ(指定期間:平成23年9月1日~平成29年3月31日)

代表者 :株式会社 小学館集英社プロダクション

構成員 :大日本印刷 株式会社

:株式会社 シェアード・ビジョン

:大星ビル管理 株式会社

:株式会社 図書館流通センター